
らき☆すた～平穩の向こうに～

RoseLily

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

らき☆すた〜平穩の向こうに〜

【Nコード】

N1580I

【作者名】

RoseLily

【あらすじ】

らき☆すたのオリジナルストーリーだと思う↑
二次創作です。

モバで非公開くらったので
こっちに移転。

転校生と小さい友達（前書き）

らき☆すたを題材とした

オリジナルストーリー？

・・・とかいっても

原作ネタ多し↑

主人公 福永準と

らき☆すたの面子が

繰り広げるストーリー？

さあ、始まるザマスよ

転校生と小さい友達

フクナガジュン
俺は福永準。

今日は9月1日。

つまり2学期。

今日からこの陵桜学園に

お世話になることになった。

いったいどんな学園生活になるんだろう――――――

俺はまず職員室に行った。

そこで待ってたのは、ある先生だった。

「???」
「おっ、きみが福永君か？私は黒井ななこ、今日からあんたの担任や。よろしゅうな。」

なかなかの明るい先生っぽいな。

黒井「しっかし、ずいぶん背え高いなあ。」

そう、俺は身長が192cmもあるのだ。

これで苦労したことも

しばしばある。

黒井「うちの泉とは大人と子供の差やなあ、、、。」

泉って人、そんなちっちゃいのか？

俺は黒井先生と共に教室まで歩いた。

そして、黒井先生が中に入り、みんなを席につかせた。

黒井「ウーッス！みんな久しぶり。そしておはよう。今日はうちに

転校生がやってきたんや。ほな、福永。入ってくれ。」

準「はい。」

俺は教室に入った。

ガコン！

準「つつー、、、」

頭を窓にぶつけてしまった。

クラスから笑いと驚きの声が起こる。

まあまあつかみは

良かったって事で。

黒井「今日からみんなといっしょに過ごす福永準君や。ほれ、福永。自己紹介！」

準「えっと、湘北高校から転校してきた福永準です。どうぞよろしく。」

黒井「じゃあ福永の席を決めないとな、、。せや、泉の隣がないからそこにしような！」

準「あっはい。」

さっきの話で話題に出た泉さんか、、。ってええ！？

こなた「私は泉こなた。よろしくねゞ（〓ω〓）」ちっちゃい！
てかこの子、本当に高校生！？

キーンコーンカーンコーン

時は流れて下校時間。

とぼとぼ歩いていると————

ドンッ

???「いたたあゝ・・・」

準「ごつ、ごめ・・・あつ、さっきの・・・」

こなた「おおゝ奇遇だねえ。フラグたったかな？」

ふ、フラグって／／

こなた「君は家どっち？」

準「?、こっちだけど・・・」

こなた「おおゝ私もなんだ！なんなら私の友達と一緒に帰らない？」

これが陵桜学園の最初のずいぶんちっさい友達だった――――

――――こなたとはすぐに打ち解けた。

根っからのオタクのよう。

こなた「いやあゝしかし大きいねえ。準君身長いくつ？」

準「俺？192だよ。こなたは？」

こなた「あたしなんか142だよ、」

準「あつ、ゝ！ごめん、傷ついた・・・？」

こなた「いや全然。慣れてるし。おっいたいた、おい、かが

みーつかさーみゆきさーん！」

そうこうしてるうちにこなたの友達と合流した。

???「おっす、こなた。あれ？その隣の人は誰？ずいぶん背高い

けど・・・？てかあんたが余計小さく見えるわね（ププツ）」

こなた「失礼な？この子は転校生。うちのクラスにいるんだよ。つ

かさともゆきさんは知ってるけどね。」

準「俺は福永準。よろしく。」

一応自己紹介をする。

???「私は柊つかさ。よろしくね。」

ああ、俺が頭ぶつけた時

「どんだけ」って

つぶやいていた子だ。

???「私は柊かがみ。私たちは双子でつかさは私の妹よ。よろし

く。」

にっ、似ても似つかない。。。

正反対のイメージがあるのは

俺だけなのか？

??? 「私は高良みゆきと申します。よろしくお願いします。」

ずいぶんと律儀な子だな。

なんかブルジョワそう、、

こなた「こんな感じだから。で、私は泉こなた。改めてよろしく

！」

準「おう、皆、よろしくな！」

これがあんな事で

終わるなんて

誰が予測をしていたろう。

帰り道と兄沢さんと

俺はこなた、かがみ、つかさ、みゆきの四人と一緒に帰ることにした。こなたの友達ともすぐに打ち解け合った。

準「しかし、髪色って規制されてないの？」

そう、この4人は

髪色がすごい。

こなたは青、柊姉妹は紫、みゆきはピンクと
なんともカラフルである。

かがみ「うちの学校はほぼ決まりとかはうちら学級委員で決めるからね。」

みゆき「そうですね。あつ、ちなみに私とかがみさんは学級委員なんですよ。」

準「そういえばかがみだけ別クラスなんだよね、、、」

つかさ「そうなの。お姉ちゃんだけ別なの><」

こなた「なんか淋しいけど、忘れ物したときは便利だよーかがみに借りれるから」

かがみ・準「ちっとは反省しろよ」

こなた「んあ、ちょっと寄り道していい？買いたいものがあるんだ。」

反省の弁無しに寄り道か。

準「いいけど、、、何買うの？」

かがみ「準、こいつはオタクだからどーせ漫画の新刊とか買いに行
くだけよ。」こなた「そういうかがみんもオタク・・・」かがみ「
うるさい！いつもあんたみたいのが近くにいるから・・・」

つかさ「どんだけ」

うん、どんだけ。

みゆき「やっぱり仲がいいですね」
こなた& a m p ; かがみ「／／／／」
なぜに照れる。

そうこうしてるうちに
アニ○イトについた。

ヴィーン

??? 「はっ、あの子は！伝説の少女Aではないか！」

（この人は兄沢命斗。アニメ○トの店長でこなたのことを伝説の少女Aと呼んでいる。伝説の少女Aの逸話はググってくれ）

兄沢「あの少女に一刻もはやくレジという名のゴールに着かせねば！」

店員1「店長！お供します！！！」

兄沢「おう！よいいくぞ！！！」

兄沢& a m p ; 店員1「いらっっっしやいませえええ！なにをおさがしでしょうかあああ！？」

準「なんだこの人たちは・・・」

俺は立ち尽くした。

こなた「ここではこれが仕様なの」

いくら仕様といっても熱すぎる。

こなた「んあ、でも新刊出でないからまた今度こよう。ごめんね、付き合わせちゃって」兄沢& a m p ; 店員1「あああああああああああああああああああああ
あっっっっっ！！！！！！！！！！」

兄沢がいるときは
どうもこの調子らしい。

店員1「オチてねーよっ！」
兄沢「また出るよ!!!」

ゆるい日常

準「やべえ、やらかした」

転校して1週間が経った、初めてのピンチだ。

遅刻ですねわかりm

ドンッ

??? 「いたたあゝ、ゝゝゝゝゝゝあーっ! 準君!?!」

準「おお、ごめんこなたあゝゝゝゝゝゝ平気?」

こなた「うん、なんとかゝゝゝゝゝゝおはよう。」

準「おう。って遅刻だぞ俺等」

こなた「ゝゝゝゝゝゝパンくわえてないかあゝゝゝゝゝゝ」

準「ベタな展開待ってたのか」

こなた「てか遅刻ゝゝゝゝゝゝ」

準「走るぞ!」

走ることにした。

こなた「ちよっとまってえゝゝゝゝゝゝ」

準「わりいわりい、いつものスピードで走っちゃまった。。。」「

俺は100Mを約11秒で走れる。

ちなみに最高記録は

10秒23だったかな。

ん、100Mって関係ないって?

まあ長距離にも少しは関係あんだろ。

それに長距離も苦手ではないし。

「しかしはやいなくこなたも」

こなた「まあねえ、でも……もう無理」

「しやあねえな。よいしよつと」

「!?!?!?!? じ、準君……?」

準「いくぞ」

気付いたら俺はこなたをお姫さま抱っこして走ってた。

「お、重くない・・・？」

準「平氣平氣！」

「あなた……助かるよ。」

乙女ですな。

つてこんなちびっこに

ときめく俺自重。

「部活入ってるの？」

こなた「入ってないよ。」キーンコーンカーンコーン

準&p.;こなた「ヤバッ！」

黒井「ほーい2人は遅刻な。以後気を付けるように！」

間に合わなかった・・・

— 昼休み —

かがみ「ほんと、馬鹿ねえ」

準&p.;こなた

昼休みはあれからこなた・かがみ・つかさ・みゆきと食べている。
なんか浮いている気がするが

別に気にはしない。

かがみはいつもこっちのクラスにきてお昼を食べている。

ふと思った。

柊姉妹の弁当が

一日おきで図柄が変わっている。たぶん一日交替で作っているんだろう。

こなた「なんか2人の弁当って豪華なときと質素なときがあるよね」。

こなた・・・それを言うな。

かがみが怒るだろうが。

かがみ「そっそれは・・・私とつかさが一日交替で作っているから／＼私はどうしてもつかさよりうまく料理ができないし、、」
こなた「えくなになに？ かがみんは料理すると鍋爆発させちゃうタ
イプ？」

みゆき「それはないと思いますよ・・・」

つかさ「どんだけ」

つかさはどんだけ「どんだけ」にはまってるんだ。

そんなかけたつもりは
さらさらないぞ。

みゆきの弁当はいつも豪勢だ。

4人「「「「おおう・・・」」」」

準「みゆきの弁当はいつも豪華だねえ」

つかさ「羨ましいなあ」

みゆき「いえいえ、それでも昨日の残り物ですよ」

4人「「「「!?!?」」」」

こなた「じゃあこのうなぎも？」

みゆき「ええ、そうですよ」

4人「「「「!?!?!?!?」」」」

準「・・・なあ、うなぎって普通余るか？」

こなた・かがみ・つかさ「「「ううん、絶対余んない」」」

こなた「むしろ取り合いになるな・・・」

満場一致ですな。

こなたの弁当はほぼチョココロネとビン牛乳だ。

準「よくそれで腹一杯になるな・・・」

こなた「まあねえ」。

モグモグモグモグモグモグモグモグモグモグ

こなた「そういえばチョココロネってどうやって食べる？」

つかさ「頭から食べる」

準「頭ってどっちさ」

つかさ「こっちの細いほうかなあ」

準「まあそだね」

こなた「あたしはこっちの太ったほうが頭だと思ったよ。でもなん
でこっちが頭なの？」

つかさ「だって貝みたいじゃない？」

準「たといえ方うまいなあ。こなたはなんで太ったほうが頭だと思
うの？」

こなた「だって芋虫みたいじゃん？」

つかさ「？」

かがみ「食事中だぞ」

準「さっ、スルースル」

こなた「でも貝と思って食べれば気持ち悪くないね。」
確かに。

芋虫よりよっぽどました。

モグモグモグモグモグモグモグモグモグモグモグモグモグ

かがみ「こなた！チョコ垂れてるわよ！」

こなた「？ペロペロ」

モグモグモグモグモグモグモグモグモグモグモグモグモグ

つかさ「こなちゃんチョコ垂れてるよ。。。」「

こなた「？ペロペロ」

みゆき「あ、あのっ、細いほうをちぎって余ったチョコをつけて食べるのはどうかと・・・」

こなた「おおっ、流石はみゆきさん、頭いいねえ」

みゆき「いえ、食べ方は人それぞれですから」

かがみ「私もそう思ったけど・・・？」

こなた「・・・」

かがみ「何よその態度！！！」

見るからにあからさまな

態度だな。

まあ俺も考えたけど

黙っておこう。

つかさ「あっ、なるほど」

こいつは置いておこう。

そして放課後になりみんなと帰ることにした。

かがみ「最近凶悪犯罪増えてるわよね」

みゆき「そうですね、最近はお子さんを狙う事件が多いですね」

つかさ「怖いよ」

こなた「それってモラルうんぬんより単にギャルゲーやエロゲーのやりすぎじゃない？よくあるシチュだしさ」

かがみ「そりゃまんまあなたの事でしょうが！」

ん、ん、？俺とかがみは気付いた。

準・かがみ「ちよつとまで、なんでギャルゲーやエロゲーの内容を知ってるんだ！高校1年生！」

こなた「（へへ）ニヤリ」

つかさ・みゆき「「？」」

中間テスト

9月末――――

こなた「恐怖の時期がやってきた・・・」

準「なんで？」

かがみ「テストよ、テスト。こいつは勉強しないから自業自得ね。」

準「じゃあ、勉強会やんない？」

こなた「おお、ナイスアイディア！」

つかさ「いいねーやろうやろう！」

みゆき「いいですね。やりましょう」

かがみ「なんだか波乱万丈なことになりそうだな、まあ、いつか。じゃあ今度の土曜日にやりましょ」

そしてなぜか俺の家に

みんなが来ることになった。

なぜ俺の家なんだか。

約束の日――――AM9:30。

ピンポン

準「おおういらっしやいみんなそろって」

こなた「やふうう！」

かがみ「おっす、準。」

つかさ「準君、おはよう。」

みゆき「おはようございます、準さん」

準「まあまあ、あがってよ。」

「失礼します。」

かがみ「はいこれお土産。」

かがみとつかさは準に

ジュースを差し出した。

準「おお、サンキュ！」

みゆき「私も、つまらないのですがよろしかったら・・・」

みゆきは準に

水ようかんを差し出した

準「うまそう。サンキュ！」

こなた「では私からも」

こなたは準に

ゲーム機とカセットを

差し出した。。。

準「・・・サンキュ。」

こなた「あとでみんなでやろうね☆」

かがみ「おまえ勉強やる気あんのかよ！」こなた「ないよ」

準「即答かよ！」

A M 1 0 ・ 3 0 — — — — —

こなた「ねえ準君。ココ教えて」

準「ここはね・・・」

準は前の学校では

成績は5本指に

入るくらいだった。

準「・・・こうやるんだよ。」

こなた「んあ、なるほど。ありがと」

数分後

こなた「みゆきさくん、ここどうやってやるの？」

みゆき「ここは・・・こうやるんですよ」

こなた「流石はみゆきさん、ありがと」

数秒後

こなた「かがみここからここまでどうやるん」

かがみ「おまえ自分で考える気ないだろ！しかもちよこちよこ人かえて！」こなた「うん」

かがみ「だから即答するなっ！」

P M 1 ・ 0 0

準「ここはこうやって・・・っと」

みゆき「・・・次は・・・」

かがみ「この問題は・・・っと。」

こなた「ZZZ」

つかさ「アッハハ、バルサミコ酢」

かがみ「こなた・つかさ二人とも現実逃避すんな！」

こなた& a m p;つかさ「は〜い・・・」

P M 2 ∴ 0 0

かがみ「ちよつと疲れたし、休憩にしようか？」

みゆき「そうしましょう。」

準「みゆきのもってきた水ようかんと柊姉妹がもってきたジュースとこなたのもってきたゲームで一休みとしますか」

こなた& a m p;つかさ「ヤッタァァ！」

かがみ「この休憩は9割方あんたたちのためにとってるんだからね！」

こなた& a m p;つかさ「うっ／／／／／」

そしてみなでお菓子を食べたりゲームをしたり色々して遊んだ。

こなた「・・・準君強い・・・」

つかさ「準君すごい」

みゆき「お上手ですね」

準「そうか？♪」

かがみ「・・・格ゲーでこなたに勝った人初めて見たわ」
なんだかんだで

勉強会は幕を閉じた。

そしていよいよテストの日。

教科は7教科、700点満点だ。

・
・
・

数日後。

黒井「ほな、こないだのテスト返すで」

世界史の担当である

黒井先生がテストを

返しはじめる。

かがみ「・・・まあまあね（85点）。つかさはどうだった？」

つかさ「聞かないで／＼（57点）」

かがみ「さーて、自称一夜漬けの天才はいかに？」

実は勉強会の日――――

かがみ「ちゃんと勉強しなよ！」

こなた「私は一夜漬けが天才的だから」

準「・・・そういう問題じゃないと思うぞ」

――――

こなた「おかげさまで！（81点）」

かがみ「納得いかねえ！」

『この頃もこんなに幸せだったんだな・・・』

準
「
・
・
・
?
」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1580i/>

らき☆すた～平穩の向こうに～

2010年10月13日17時23分発行